

平成24年度過疎地域等自立活性化推進交付金 過疎地域等自立活性化推進事業概要一覽



総務省地域力創造グループ
過疎対策室

過疎地域等自立活性化推進交付金の活用事例(平成24年度)

○産業の振興(スモールビジネス振興)

北海道留萌市:留萌自慢・ハネ物食材を地域のトップブランド化プロジェクト事業	…1
北海道江差町:追分の里「旨いもの」資源を活用した新たな産業づくりプロジェクト	…2
北海道天塩町:首都圏の学校給食と連携した「てしお食のスモールビジネス」事業	…3
山形県西川町:月山山麓 山菜きのこ王国プロジェクト事業	…4
新潟県阿賀町:雪国の温泉熱と雪冷熱を利用したエコな産業創造による地域活性化事業	…5
新潟県佐渡市:トキと共生する佐渡の里山アクションプラン～佐渡GIAHS(世界農業遺産)ブランド創出への挑戦～	…6
福井県池田町:百匠一品商品化デザインプロジェクト	…7
三重県鳥羽市:地域資源「海の葉っぱ」を活用した漁村地域の活性化事業	…8
徳島県上勝町:過疎地域における地域商店活性化のための共同商店事業	…9
長崎県松浦市:福岡アンテナショップを核とした“松浦”FAN創出事業	…10
大分県中津市:6次産業の振興を軸とした地域内の連携・補完・共生による力強い地域づくり	…11
鹿児島県屋久島町:屋久島天然酵母菌調査研究開発事業	…12

○生活の安心・安全確保対策

北海道美深町:～まちのにぎわい創出～フレンドバスびふか運行事業	…13
徳島県三好市:三好市集落支援包括事業	…14

○集落の維持・活性化対策

新潟県魚沼市:魚沼スマイルデマンドネットワークプロジェクト	…15
長野県木島平村:大学との連携による集落の維持・活性化の試みと村民の意識啓発	…16
京都府京丹後市:「都市部の友好都市との連携・交流による過疎地域の再生」	…17
島根県雲南市:斐伊川・神戸川流域における命の絆づくり事業	…18

○移住・交流・若者の定住促進対策

山形県飯豊町:震災後の新しい農都交流型ツーリズムの実証調査プロジェクト	…19
兵庫県養父市:おおやクリエイターズ・レジデンス事業	…20
広島県大崎上島町:瀬戸内海・島まるごと体験交流推進事業	…21
山口県山口市:中山間地域広域的価値創造発信事業	…22
長崎県壱岐市:しま共通地域通貨を活用した産業振興及び交流人口拡大事業	…23
熊本県八代市:五家荘地域複合型輸送システム構築事業	…24
沖縄県久米島町:広域Wi-Fi無線を利用した観光客情報発信事業	…25

○地域文化伝承対策

富山県南砺市:越中伝統工芸の最高峰「井波彫刻」と「五箇山和紙」の匠の技の伝承と新伝統工芸品創出事業	…26
和歌山県北山村:北山村の伝統的山村文化の継承事業	…27

○環境貢献施策の推進

北海道ニセコ町:環境型ニセコ旅育(たびいく)の創出による地域おこし事業	…28
北海道標津町:循環型環境システム構築実証事業	…29
沖縄県竹富町:島産エネルギーを活用した雇用創出事業	…30

留萌自慢・ハネ物食材を地域のトップブランド化プロジェクト事業

概要

留萌市はカズノコ・タラコに代表される水産加工都市として全国的な知名度を有しているものの、これら大きなロットの水産加工業が中心である反面、地場の農水産資源は多種多様であるが、資源量も小さく、それらを原料とした加工は進んでいない状況にある。このような背景から、低ランニングコストによる、食味や発色、栄養成分を損なわない特徴的な技術である減圧平衡発熱乾燥法に着目し、本技術を用いた乾燥機を導入して、規格外、未利用の農水産物や、既存加工品などを対象とした乾燥加工試験を行い、優れた地場産品の潜在的な力を最大限に引き出した新商品の開発や食品の素材としての利活用の方法を研究し、留萌地域の食品開発の基盤強化を図る。

事業の内容

事業の内容

食味や発色、栄養成分を損なわない特徴の減圧平衡発熱乾燥機を導入し、普及啓発(セミナーの開催等)、素材・ニーズ調査、加工試験研究(企業等提案による共同研究含む)、製品化に向けた成分分析、試験販売、ニーズ調査等

総事業費

10.5百万円

ポイント

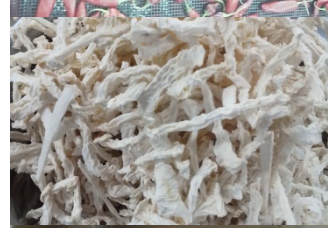
- ・規格外、未利用資源の有効活用と農水物の付加価値向上による新たな商品開発。
- ・乾燥加工に向けた生産振興と6次産業化、農商工連携の機運づくり。
- ・集荷、加工製造、販売を一体的に担う事業化による新たな雇用の創出

事業の成果

減圧平行発熱乾燥法による乾燥加工を軸にこれまで、農水産物、肉、花、菓子等含め62品目の試作研究や、11の企業、団体、生産者等からの提案をベースに共同研究試作を通じ、農商工連携による規格外のりんごを活用した乾燥りんごの商品化に至る。また、生産者や消費者に幅広く、乾燥(干し)野菜の価値を浸透させたことにより、生産者自らが今後の製造加工、商品化、販売に着手する契機が生まれるなど、今後に期待できる結果となった。



北海道留萌市



追分の里「美味しいもの」資源を活用した新たな産業づくりプロジェクト

概要

江差町北部に位置する農村地区では急激な人口の減少による高齢化の進行、後継者不足などの状況に晒されており、雇用の場の確保が喫緊の課題となっていることから、「緑の分権改革調査事業」により整備された施設の活用し、地元農産品を使用した新しい特産品の開発を行い、地域所得の向上、雇用の拡大を推し進め、自立型農村社会の創造を図る。

事業の内容

事業の内容

- (1)地域の農産資源を活用した新しい商品の開発
- (2)新しい商品のパッケージと併せ、江差ブランドの構築の研究
- (3)未利用農産品の有効活用を図る、新たな流通方式の検討

総事業費 10百万円

ポイント

「顧客のニーズ」に対応した商品開発とそのパッケージの制作に併せ、江差町のブランドシンボル(ロゴ)も制作し、それらのツールを重層的に活用した、「江差ブランド」の構築方法及び将来のブランド戦略について研究する。

事業の成果

地域の農産資源を活用した商品(大豆かりんとう、べこ餅、カボチャ味噌)を開発するとともに、そのパッケージデザイン、町のロゴ及びロゴを反映させた販促ツール(横断幕、幟等)も制作し、それらの反応を得るための市場調査を行い、ロゴ、パッケージの活用方法について決定した。今後については、今回の取組から導きだした江差町におけるブランド階層を活かした戦略に基づき、町の認知度の向上を図りつつ、「江差ブランド」の構築、定着、発展を目指す。

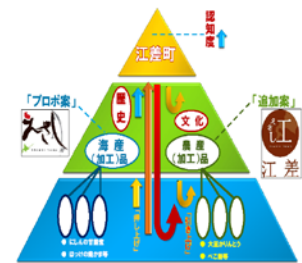
北海道江差町



開発商品・パッケージ



ロゴ・販促ツール(横断幕)



ブランド戦略概念図

首都圏の学校給食と連携した「てしお食のスマールビジネス」推進事業

概要

食のスマールビジネスの推進(天塩漁業生産振興協議会、町民農園友の会)により、天塩産の砂かれい、ちか、ほっけフィーレ、さけ切り身、さけフィーレ等、また、砂丘を活用したじゃがいも等の農産物を給食用として首都圏の小中学校へ販路開拓するため、学校の食育の取り組みと連携を図りながら、漁師さんによる出前授業や学校イベントへの参加を行う。また、新たな「農林水産加工施設」整備に必要な需要調査、事業計画の策定、整備計画の策定などの調査事業を行い、運営組織の立ち上げを検討する。

事業の内容

- ・漁師さんによる出前授業、学校等へのイベント参加
- ・栄養士等学校関係者の産地訪問ツアーの実施
- ・無農薬で化学肥料に頼らない安全安心な高付加価値の砂丘野菜づくり
- ・無農薬野菜の宅配・宣伝啓発事業と地産池消及び実験販売
- ・新たな「農林水産加工施設」整備に必要な需要調査、事業計画の策定、整備計画の策定などの調査事業

ポイント

総事業費

11.8百万円

○漁師さんの出前授業については、直接都内の小中学校等で魚のとれた天塩町の様子や魚の食べ方についての授業を行う。また、栄養士等学校関係者の産地訪問ツアーでは、食への理解や地元天塩産食材のPRを行なう。

○安全安心な高付加価値の野菜づくりにより無農薬野菜の宅配オーナー便の実施。

事業の成果

東京の子どもたちに、食材の産地を体感してもらうことにより、地域の未利用資源であったカレイ等の学校給食への販路拡大を図り、漁師さんの出前授業や都内イベントへ参加し、天塩町の食材PRを行った。H23年度では約3万5千食を提供していたが、今年度では4万8千食の実績に至っている。

農産物については、米ぬかをベースにEM菌を発酵した有機肥料から無農薬野菜づくりに取込み、安全安心野菜の評価から31件の宅配オーナー便を実施することができ、地元の学校・保育所・病院などの普及啓蒙から食材の提供と東京都小学校3校の食育の材料として実験販売を行っていった。また、北海道の一大イベント札幌雪まつりに参加し無農薬の取組や宅配オーナーり宣伝普及を行った。これら地域の前浜から水揚げされる水産物と連携した取組みからや地産地消の推進や新たな首都圏の学校給食への販路が開拓され、今後更に販路が拡大されビジネスにつながる期待が大きいと考えます。

北海道天塩町



都内小学校においての出前授業の様子



都内での天塩産PRの様子



砂丘野菜の収穫の様子



都内小学校において鮭のアラ汁の試食の様子

月山山麓 山菜きのこ王国プロジェクト事業

概要

西川町の地域食文化である山菜きのこを中心テーマに産業を横串する。町内の山菜きのこを一元的に集出荷する仕組みを構築。その山菜きのこを中心とした農産物を利用した農産加工品づくりを行う環境整備と商品開発機能の強化をはかり、女性を中心に雇用や生きがいつくりの場を確保。彼女達の農産加工や都市交流のsmallビジネス立ち上げを促す。

事業の内容

事業の内容

- 農産加工環境整備(加工設備等の購入)
- 女性農家グループによる農産加工商品づくりとそのテスト販売事業を道の駅で実施
- 「食の文化祭」と通じて地域の食文化の見直しと隠れた宝ものを発掘
- 商品開発は町第3セクターと連携し、開発ノウハウと情報発信機能を強化

ポイント

- 商品化は首都圏のこだわりスーパーとの連携し、ブラッシュアップと購買者育成

総事業費

12百万円

事業の成果

- 山菜を利用した加工品「月山のめぐみ」シリーズの販売決定
- smallビジネスを展開する団体の創出
- 道の駅と連携した商品づくりの仕組みと販売システム構築

山形県西川町



雪国の温泉熱と雪冷熱を利用したエコな産業創造による地域活性化事業

概要

地域に豊富にある温泉熱と雪冷熱のエネルギーの地産地消により、低コスト・低負担（農作業）、鳥獣害対応型、通年型農業の確立を目指し、温泉排湯ヒートポンプ活用の温室と雪室による、山菜等の高付加価値作物の栽培や、出荷時期管理の可能性について実証調査を行い、実現可能性が示された。

また、これらの作物を活用した阿賀町の食のブランド化と観光振興の展開について町内の事業者ヒアリング調査をもとに検討し、展開モデル案を作成した。

事業の内容

事業の内容

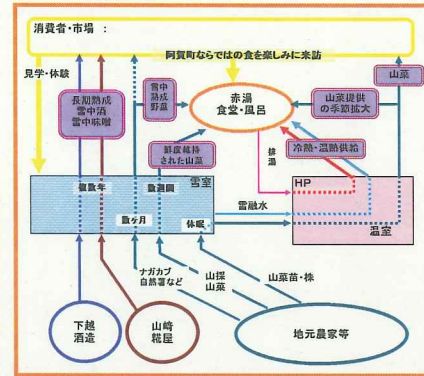
- ①温泉廃湯熱・雪冷熱の利用可能調査(実証実験、システム検討)
- ②モデル作物の栽培実験(栽培方法・生産量・コスト)
- ③食の地産地消による観光振興手法検討(事例調査、ワーキング会議)
- ④地域産業化に関する検討調査(事例調査・ワーキング会議)

総事業費

10.54百万円

ポイント

- ①温泉排湯ヒートポンプを活用し、冷熱と温熱のエネルギーの双方を活かして通年利用可能なシステムとしたこと
- ②町内の遊休施設を活用することで、施設の初期投資を低く抑えるとともに、豪雪への対応を図ったこと
- ③町内の旅館や温泉施設で人気がある「山菜」の出荷調整を可能としたことで、安定供給の可能性が示されたこと。



新潟県阿賀町



ビニールハウス
5400×4500
(3間×2.5間)
7.5坪



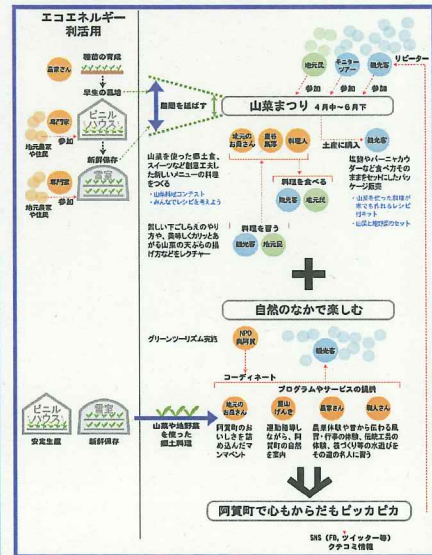
水耕栽培ユニット
2坪(イチゴ)
照明時間 6:00~19:00
電球色・昼光色LED
皿下温度 約10000lx
左側ユニット 緑LED
(新宮への販路力、生育直線)
照明時間 17:30~20:00



高層栽培(イチゴ)
照明時間 6:00~18:00
植物育成用LED
片:40cm 幅:60cm
20W×12本
皿下温度 約3000lx
緑LED
(新宮への販路力、生育直線)
7W×3台
照明時間 17:30~20:00

事業の成果

- ①ヒートポンプと雪室の活用により、地域資源である温泉と雪冷熱エネルギーの地産地消が、実現できる可能性が示された
- ②灯油の3割程度の費用で、低負担・鳥獣害対応・通年型の農業が実現できることがわかった。
- ③阿賀町の強みである、山菜、自然薯、糍(味噌や酒)、野菜などを地域ブランドに育てることで、観光振興と食の地産地消の展開が図れる可能性が示された。
- ④地場野菜の商品化や施設栽培の管理により、農家女性や高齢者の活躍の場の創出が期待された。



トキと共生する佐渡の里山アクションプラン ～佐渡GIAHS(世界農業遺産)ブランド創出への挑戦～

概要

<事業実施の経緯・背景>

- 人とトキの共生を目指し、生きものを育む農法により生産され、市が認証する環境ブランド米「朱鷺と暮らす郷米」が成功
 - 認証制度による生産体制を島全体に広げ、消費者との連携を果たしていることなどが評価され、日本初のGIAHS(世界農業遺産)に認定
 - 地域資源は豊富であるものの、米以外の農林水産物のブランド力は弱い
 - 認証制度の対象を拡大し、佐渡の特産品「おけさ柿」を次のブランド商品として売り出したいが仕組みづくりに苦戦中
 - 農業・化学肥料を抑えた環境ブランド米は産地間の競争が厳しいため、競争に負けない、更なる農林水産物の高付加価値化に向けた取組が必要
- <事業の概要>



新潟県佐渡市



生物多様性支援システムの開発



エコプロダクツ2012



おけさ柿販売イベント(島外)



地産地消フェスタ(島内)

①更なる農林水産物の高付加価値化

オンリーワンの佐渡GIAHSブランドを確立するため、大学等との連携により、地域ニーズに即した調査研究や教育の実施・還元等を行うとともに、島外の地域と連携・交流し、互いの地域の取組を学び、活かしながら、環境価値の向上や付加価値の証明方法を探る。

②おけさ柿のブランド化の推進

朱鷺と暮らす郷米に続く環境ブランド力の高い農産物を創るため、佐渡の特産品「おけさ柿」の認証制度を立ち上げ、持続可能な生産体制を確立するとともに、首都圏量販店との連携や販売イベントを開催することにより、PRの強化と定着、販売力の強化を図る。

事業の内容

事業の内容



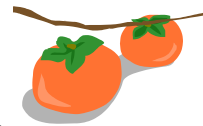
トキと共生する佐渡の里山 (イメージ)

①更なる農林水産物の高付加価値化

- 大学連携推進事業(交付金対象外事業) 寄附講座の実施(環境経済好循環戦略推進委員会)
- GIAHSアクションプラン推進事業 能登・佐渡里山里海連携会議、佐渡GIAHS推進会議の実施、首都圏フォーラムの開催

②おけさ柿のブランド化の推進

- 販売網構築事業、園芸作物振興事業 おけさ柿など首都圏等での販売、イベントの実施
- 地産地消推進事業 地産地消フェスタの開催(スイーツレシピコンテスト、まるごとふれあい市など)



総事業費

40.5百万円

ポイント

- ✓ 大学など多様な主体との連携、トキの営巣位置・農地情報等を反映した生物多様性支援システムの開発により米の付加価値向上
- ✓ おけさ柿を中心としたオリジナルスイーツの開発、販売イベント等により島内外でおけさ柿のブランド化に向けた基盤づくりに貢献

事業の成果

- ✓ 大学等と連携し生物多様性支援システムを開発、より効果的な運用を促進
- ✓ エコプロダクツ2012(178,501人来場)で能登地域とともに世界農業遺産をアピール
- ✓ 関東・関西方面を中心におけさ柿の販売イベント等を実施したことにより、新たな販路獲得に向けた準備ができた
- ✓ 地産地消フェスタでは来場者約3,000人、スイーツレシピコンテスト開発商品が約20分で完売し、2作品が商品化決定

百匠一品商品化デザインプロジェクト

概要

池田町では、これまで農村暮らしの文化と農業資源をまちおこしの原点として取り組んできており、そのコンセプトとなっているのが「百匠一品」一人ひとりの心と技の匠を一つに持ち寄るという理念である。これまでの商品化等の実績をさらにジャンプアップさせるため、「百匠一品デザイン化プロジェクト」を実施する。

事業の内容

事業の内容

○商品化デザインプロジェクト

農産物等の食材を調理・加工・保存する風土に根付いた食文化や、豊かな森林資源を背景とした木工品の技の商品化等を目指す。

○マーケティングプロジェクト

販路開拓、顧客獲得に向けて、都市と農村をつなぐ企画から商品販売の機会を創出する取組み等を行う。

総事業費

10.5百万円

ポイント

- 様々な取組みが一元的に進み、情報共有による効果を発揮するようプロジェクト委員会を設置。
- 商品開発に積極的に取り組む事業者との連携・協働。

事業の成果

米粉を原料とした新商品の開発や、市場調査に基づく既存商品の改良が進んだ。また、「出向くマーケティング」と「呼び込むマーケティング」を実施したことにより、売れる商品の選別眼や、きめ細かな消費者対応等を身につけることができた。

福井県池田町

特産のミディトマトを使用した
「トマトアイス」



東京での市場調査
「試食会」



「食の文化祭」



地域資源「海の葉っぱ」を活用した漁村地域の活性化事業

概要

当市の海に面した集落は漁業を主産業とする漁村で、漁業の低迷により漁業後継者が減少し、若年層の都市部への流出が常態化している。そのため、伊勢志摩地域の海藻を代表するヒジキの養殖化と共に、海藻「海の葉っぱ」を活用した、新商品づくりやPRなどの産業振興に取り組み、漁村地域の活性化を図るものである。

三重県鳥羽市

ヒジキ養殖普及



事業の内容

事業の内容

- 伊勢志摩地域を代表する海藻であるヒジキの養殖化
- 漁業者への新規養殖技術の普及定着
- 鳥羽を代表する海藻の情報発信用、リーフレット・パネル作成
- 地域団体による、海藻を活用した特産品づくりとPR

総事業費

9.6百万円

ポイント

- 国内でも事例の少ないヒジキの養殖定着化に取り組み、漁業生産の多角化、ヒジキ生産量の向上を図る。
- 海藻産地としての情報発信や特産品開発などに取り組み地域資源を活用した漁村地域の産業振興を図る。

海藻による地域活性化



事業の成果

- 新規養殖技術の普及により、漁業者の関心度が向上し、新規養殖への取組みに意欲的に参加していただいている漁業者が増えた。今後も養殖化試験に取り組み、多くの漁業者が取り組めるよう、さらなる生産リスク軽減や養殖作業の省力化を図りたい。
- 地域団体による特産品づくりにより、地域で利用されていなかった海藻等の利用が促進され、地域の活性化に繋がった。また、同じ目的で活動する団体が集まることにより、情報交換や連携を図ることができた。今後、さらなる商品開発や販売の支援をおこなっていききたい。



過疎地域における地域商店活性化のための共同商店事業

概要

人口2000人弱、高齢化比率が約50%の上勝町では、他の地域の例にもれず、高齢化、過疎化による買い物弱者の問題が起こっている。現在は町内に商店が15ほどあるが、店主自体も高齢化が進み、後継者がいないなどの問題が起こっている。このままでは今後数十年間の間に町内の商店が激減するという事態が容易に想像でき、地域商店の活性化は急務である。本事業では、他地域の例を参考に、①共同商店の実証実験②上勝町らしい商店作りによる地域経済の活性化を行った。

事業の内容

事業の内容

地域商店と協力しながら、上勝町のゼロ・ウェイストというブランドを活かした上勝百貨店を運営し、地域特産品の販売、独自商品の開発を行った。

総事業費

10.1百万円

ポイント

上勝町には約15の商店が存在するが、深刻な過疎化、店主の高齢化に伴い、ほとんどの商店が閉店を検討しなければならないような経営状況に陥ってしまっている。町内で満足できる買い物ができる商店がなくなるということは、地域コミュニティの存続にとっても大きな問題であり、それは上勝町自体の存続が危ぶまれることと同義である。本事業では、その課題に対して、単なる共同商店という形をとるだけでなく、上勝町らしい店作り、ゼロ・ウェイストを全面に出したブランディングをすることで、町内だけでなく、町外からのお客様もターゲットとし、経済性を担保し地域経済の活性化に貢献している。

事業の成果

- ・地域内商店との共同出品コーナーを設けて運営
- ・地域特産品(ピクルス)の開発
- ・上勝町だからこその商店作りにより、町内外からの顧客獲得

地域内はもちろん、地域外の顧客に対しても魅力ある店づくりをすることで経済性を担保し、地域経済の活性化に繋がった。

徳島県上勝町



ゼロ・ウェイストによる店舗のブランド化



地域商店と共同して運営する共同商店コーナー



商品を載せて移動販売

福岡アンテナショップを核とした“松浦”FAN創出事業

概要

本市は、人口減少と地場産業（農林水産業、商工業）の低迷という現状を有しており、市域のみでの経済活動の活性化だけでなく、市外、特に都市圏からの経済的、人的活力を呼び込む施策を必要としている。そこで、最も身近な福岡都市圏への情報発信のために福岡市・天神地区にアンテナショップを開設する。これを機に、アンテナショップを拠点とした食・歴史・自然等の魅力発信と人的な交流拡大により、松浦FAN・リピーター創出に取り組みながら地域活性化を図る。

事業の内容

事業の内容

福岡都市圏からの活力を呼び込むため、交流拡大を中心とした各種事業に取り組むとともに、松浦FAN拡大に向けた調査研究を行う。

- 一般旅行者向け地域交流事業（事業A）
- 独身者向け地域交流事業（事業B）
- 観光イベント拡充事業（事業C）
- 観光誘客支援事業（事業D）
- 松浦地場産品販促事業（事業E）
- 地域資源アドバイザー事業（事業F）

総事業費

10, 1百万円

ポイント

○松浦の認知度や地域の魅力を調査しつつ、その結果をもとに歴史や体験事業などの地域資源を活用して、福岡都市圏との交流拡大に取り組んだ。その際、身近に「松浦」を感じる場である福岡アンテナショップを情報発信の拠点とし、イベント開催時に連携しながらFAN創出に努めた。

事業の成果

- 歴史・体験事業・食を活かした事業A～Dにより、福岡都市圏との交流事業に取り組むことができ、把握できただけでも約1, 000人を現地に呼び込むことができた。
- 事業A・事業Eにより、各種アンケート調査に取り組み、客観的な視点から本市の魅力や課題などを把握することができた。次年度以降の交流事業企画時に反映させていく。
- 事業Fにより、本市の情報発信のあり方や、松浦FAN倶楽部in福岡の組織強化に向けて提言を受けることができ、来年度から優先度の高いPR・情報発信とFAN倶楽部組織の改編に取り組んでいく。

長崎県松浦市

事業A 歴史+体験事業を活かした地域交流



事業E 松浦マルシェ開催支援



(拠点) 鷹ふぐバル松浦



6次産業の振興を軸とした地域内の連携・補完・共生による力強い地域づくり

概要

地域の伝統と技が創る製品をベースに、地域が有する自然、歴史、景観を活用した商品を開発、販売することで、経済効果による地域活力を再生し、地域文化の継承、コミュニティ活動の継続等、地域課題を解決し地域の存続、活性化を図ることが求められている。

事業の内容

事業の内容

- 商品開発事業：6次産業での農産加工品、料理、林産加工品の開発
- 総合型産業推進事業：6次産業化推進、生産、加工、販売の連携、インキュベーション
- 生産拠点施設整備：農産加工品生産拠点施設整備（加工用設備、冷凍庫、冷蔵庫、真空包装機他）
- 販売チャンネルの整備：ネット販売システムの構築と運営、アンテナショップの開設運営
- 商品販促イベント：商品販促のPRイベント参加
- ブランド開発事業：地域イメージをコンセプトにしたロゴデザイン、商標、広告印刷物製作

総事業費

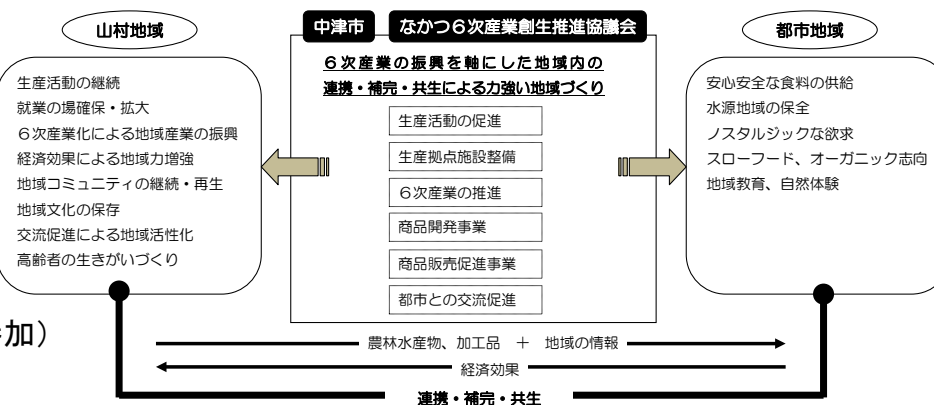
12.3百万円

ポイント

地域資源を活用したものづくりにより、地域産業の振興を図り過疎地域の地域力を増強するとともに、地域間、組織間、世代間の交流を促進し、相互補完による循環型社会を形成することにより、地域の人々が生き活きと生活できる力強い地域づくりを目指す。

事業の成果

- 地域産業の振興（6次産業）
- 就業の場拡大（若者定住）
- 生産活動の継続（農地林地保全）
- 生活文化の継承（食文化）
- 地域間交流促進（循環型社会形成）
- コミュニティ活性化（組織再生）
- 高齢者の生きがいづくり（生産活動参加）



大分県中津市



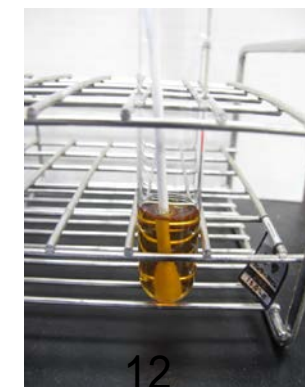
屋久島天然酵母菌調査研究開発事業

概要

世界自然遺産を有する屋久島に課せられていることは、自然環境保護や循環型社会のモデルとして常にパイオニア的存在として情報を発信し続けなければならないと求められている。

屋久島で昔から営まれていた自然と人との関わりを新たに表現する1つとして、世界自然遺産の森等から酵母菌を抽出しその菌を利用した新商品を開発し産業振興の起爆剤とする。

鹿児島県屋久島町



事業の内容

事業の内容

優れた発展可能性を秘めている世界自然遺産の森等から特質した天然酵母菌を、屋久島外の営利企業より先に発見し特許登録することにより自然環境保護に寄与し同時に当該酵母菌を活用した製品開発を推進し、地域産業振興策としての新規事業への構築を図る。

総事業費

11百万円

ポイント

- 鹿児島大学との「域学連携」(共同研究)として事業を着手する。
- 新商品を民間等と連携しながら開発することによって「産学官」が共同して地域振興を図る

事業の成果

- ・これまで屋久島において研究されることがなかった「酵母菌（応用生物科学分野）」について初めて着手し、今後の展開と可能性を見出すことができた。
- ・知的財産権を屋久島町が出願登録することによって、発見された酵母菌を活かしながら戦略的な商品を町主導で民間等と連携して今後、自然観光だけでなく自然を利活用した新たな財源を生むことを秘めたオンリーワン商品開発に着手できるようになった。

～まちのにぎわい創出～フレンドバスびふか運行事業

概要

美深町市街地において、高齢者などの交通弱者もいきいきとした潤いのある生活を確保できるよう、新しい交通サービス体系の確立と浸透を図るため、予約型フレンドバスを運行した。さらに、町内の知的障がい者が運営する「まちの駅かぜる交流ステーション」を活用した利用促進策を実施し、バスとまちの駅の利用促進、障がい者の活動支援や交流、特産品の消費拡大、市街地のにぎわい再生のためのきっかけづくりに取り組んだ。

事業の内容

事業の内容

右表のとおり

総事業費

10百万円

ポイント

- 市街地に予約型のフレンドバスを運行し新しい交通サービスを確立した。
- 市街地バス利用創出事業は、バス利用時に、障害者が運営する「まちの駅」の利用補助券を発行して利用促進を図った。
- 公共交通利用活性化事業は「まちの駅」の取扱商品などを積極的に活用してバスまつりを開催し、にぎわい創出につなげた。

事業の成果

市街地に予約型のフレンドバスを運行し新しい交通サービスを確立した。各種PRにより、10月以降利用が増加し、特に70歳以上の高齢者の日常生活の重要な足として機能している。調査事業によるアンケート結果では町民の9割に認知されており、フレンドバスの浸透を確認することができた。バス利用創出事業では、まちの駅の喫茶販売は前年比118%、常設販売は同128%となっており、一定の効果が確認できた。活性化事業(バスまつり)は公共交通整備と道路網整備を一体的に啓発でき、町民の関心と理解を高めることができた。次年度以降もフレンドバス運行と、まちの駅を活用した各種事業に取り組む予定である。

北海道美深町



利用補助券でまちの駅の喫茶を利用する町民



バスまつりには250人の町民が集まり体験乗車や抽選会を楽しんだ



市街地を運行したフレンドバス

三好市集落支援包括事業

概要

【経緯と背景】急激な人口減少と高齢化により、これまで自助の機能を発揮してきた自治会や集落のコミュニティ機能の維持が困難となるなか、本市では、独自に集落調査を実施し、道路や水道などのインフラの維持や、食料品や日用品の確保が困難となるなど、緊急時の安心・安全が脅かされるとともに、空き家や耕作放棄地が増え、農作物などへの鳥獣被害も深刻となるなど、集落の抱える課題と生活支援の必要性が明らかとなった。

【概要等】これらの課題を解決し、地域の活性化と市民が安心して生活できる地域を実現するため、「三好市集落支援包括事業」として次の各事業を行うこととした。

事業の内容

事業の内容

- 移動販売等支援(移動販売業者への車検費用、新車購入費用補助)
- 集会所新築・改修(新築、改修に要する経費補助)
- 有害鳥獣対策のための侵入防護柵(設置経費補助)
- 生活道の維持管理(生活道の草刈作業費補助)

- 生活用水確保(水源確保にかかる人件費補助)
- 有害鳥獣対策のための緩衝地帯整備(耕作放棄地の草刈り等経費補助)
- 私道の開設及び改良(公道と住家をつなぐ私道の開設・改良経費補助)

総事業費

22百万円

ポイント

- ・生活支援に関する施策を包括的に講じることで、限界集落等における生活面の不安の解消を図ることができる。
- ・補助メニューをカタログ化し、一覧にして市民に示すことで地域課題を発見しやすくしている。
- ・集落支援員が地域を訪れ、本事業の実施を支援している。

事業の成果

- 地域の発意による取り組みを支援することで、住民自身が地域における課題を再認識し、主体的に解決を図る意識が醸成された。
- 課題の発見から事業の実施に至る過程を、集落支援員が地域に身を置き見守ることで、事業を円滑に進めることができた。
- 生活支援を通じ地域における新たな課題設定と、集落活性化支援へとつなげていく。
- 地域ごとに微妙に異なるニーズを把握し、制度の充実を図ることができた。

徳島県三好市

事業概念図

課題を抱える
地域や住民

自治会長等

相談

集落
支援員

申請

補助金交付

申請支援

市

14

魚沼スマイルデマンドネットワークプロジェクト

概要

本市は、全域が過疎指定となっており、特に中山間地域では高齢化や人口減少が顕著であり、自治機能が低下しつつあることから、コミュニティ協議会の設立や集落支援員による支援活動により対策を実施しているところである。

地域の声(デマンド)に基づくネットワークを構築する実証実験を実施することで、地域資源(人・カネ・モノ・情報)の往来を活発化させ、集落やコミュニティ協議会を持続可能なもの(スマイル)へ発展させる。

事業の内容

事業の内容

【第1段階】市内の各コミュニティ協議会を繋ぐ共助の仕組みづくり

- ①「うおぬまお届け隊(仮)」実施隊の発足と運営による効果の検証
- ②コミュニティ協議会ネットワーク化の促進
- ③小ロット農産物の販売による地域活力向上の仕組みの検討と実証実験
- ④デマンド交通と「うおぬまお届け隊(仮)」の連携にむけた検討会

【第2段階】首都圏における認知度アップによる集落の経済活性化

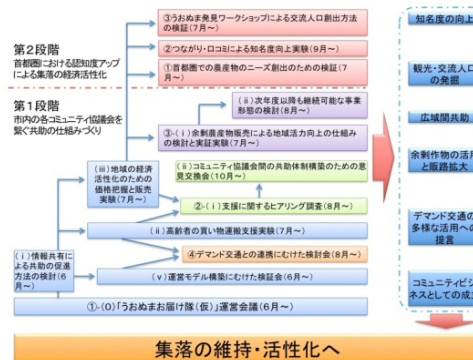
- ①首都圏での農産物のニーズ創出のための検証
- ②「つながり・ロコミ」による知名度向上実験
- ③都心の人が行きたくなる「うおぬま」発見ダイアログ型ワークショップによる交流人口創出方法の検証

総事業費

10.1百万円

事業の成果

- ・魚沼の風土、豪雪、食、生活様式など、都会の人が感じる魅力を発見し、地域間交流の実施計画を作成できた。
- ・市内のコミュニティ協議会の課題と重要性を認識し、「魚沼お届け隊」を介した市の支援体制を構築した。
- ・都内に魚沼の食材を販売したり、これを使ったメニューを提供する飲食店を開拓できた。
- ・当初計画したデマンド交通の実施が困難であったが、これに代わる「高齢化対策共助事業補助金」の制度を立ち上げ、集落支援員を増員し、支援することとした。



新潟県魚沼市

首都圏イベントでの検証

市長も売り子でがんばります!



魚沼の食材は大人気で大繁盛!!



検証結果から活動計画を策定

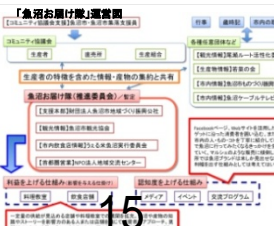
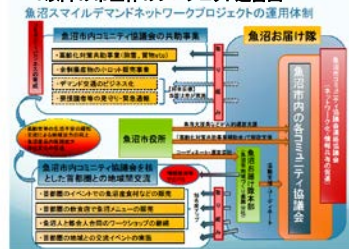
魚沼お届け隊販売の仕組み



インターネットでの販売イメージ



H25以降の市全体のプロジェクト運営図



大学との連携による集落の維持・活性化の試みと村民の意識啓発

概要

木島平村では、農村での「暮らしと生業」に自信と誇りをもつために農村文明塾を設立し、村民の学ぶ場である「農村学講座」、村民の趣味や特技を磨き地域づくりに活かす「村民研究員制度」、個別の大学の来訪を1つにまとめ複数の大学による「農村版大学コンソーシアム」を開催している。また、平成の合併で184となった村の連携のために「全国村長サミット」を開催した。今回の事業では、大学コンソーシアムに焦点を当て、単位認定等の検討も行った。

長野県木島平村



事業の内容

事業の内容

【農村版大学コンソーシアム夏季講座の開催】

6大学8人の参加。(秋季講座16人、冬季講座22人)集落の人との交流を深めるために5泊6日で集会所に泊まる。うち1泊は農家に宿泊(農家側からの誘い)。集落点検と聴取調査。集落カフェ、学生による協働プロジェクトの提案など。

総事業費

9.8百万円

ポイント

5泊6日の全行程を集会所に泊まり(里泊まり)交流を深める。夏季講座は集落点検等のフィールド調査、それに続きリピーターを確保するために「秋季講座:炭焼き体験と道祖神づくり(1泊2日)」「冬季講座:雪下ろしと冬の暮らし(2泊3日)」の農村の暮らし体験を実施。また、学生と共に農村学講座の企画・運営・実施を文明塾スタッフと協働で行いコーディネート体験を行う。



事業の成果

来村した学生は2年間で96人、内31人がリピーターとなって再訪している。集落の行事にもボランティアとして参加し、その中でコンソーシアムの受け皿となる「糠千清流の里」という集落全員参加の組織が立ち上がった。学生を泊めるという経験の中で女性達で農家民宿や農家レストランへの視察が計画されグリーンツーリズムへの取り組みが生まれている。また数年欠席していた運動会にも学生の参加で今年参加するなど集落自治への効果も生まれている。

上段: 地元の案内で集落点検。2段: 農作業の合間に聴取調査。3段: 農家からの誘いで民泊。お母さんの美味しい手料理に舌鼓。下段: 学生主催の集落カフェ、多くの高齢者が参加

「都市部の友好都市との連携・交流による過疎地域の再生」

概要

地域経済の低迷、少子高齢化や若者の流出により、地域の担い手不足が顕著な久美浜町の再生を図るために、久美浜にある資源を見直し、活かした6次産業化が求められている。今回の事業では、特に、マーケットとして、都市部の「友好都市」を対象とし、そこの連携・交流を活用し、着地型のツーリズムや特産品の販路開拓を進め、活性化の事業づくりや体制づくりをすることを目的とする。

事業の内容

事業の内容

- ①着地型ツアー企画とモニタリングの実施；友好都市である木津川市と連携し、木津川市民を対象とした秋と冬のツアーを企画し(合計4回)、旅行代理店と連携して、催行した。また、名古屋圏の誘客を図るために、中日ツアーと連携し、ツアーを催行した。
- ②地場産品の販路開拓；久美浜内の生産者や製造者、飲食や宿泊施設どうしの異業種交流会、木津川市の商工会を通じた、飲食や物販事業者を対象とした試食・商談会、木津川市民を対象とした特産品の販売、久美浜の特産品カタログの作成などを行った。
- ③食の開発；久美浜のシンボルである「龍」をテーマとした食のコンテストを開催した。

総事業費

10.8百万円

ポイント

- 都市部の「友好都市」との交流・連携へのターゲットの絞り込みと多様な取組実験
- 専任事務局の設置による、久美浜町内の円滑かつ迅速な調整
- 都市部の友好都市との連携を探り、調整を行う、都市部側でのコーディネーターの設置

事業の成果

- モニターツアー実施による、久美浜の魅力の再発見、木津川市の顧客の獲得、ツアー実施のノウハウや連携できる旅行代理店等の確保
- 販路開拓の取組による、町内の事業者どうしの結びつき、木津川市の顧客の確保、参画事業者による新商品開発の刺激づくり
- 食のコンテストの開催による、久美浜名物の候補となる「龍」をテーマとした料理(レシピ)の創造

京都府京丹後市



モニターツアー(久美浜湾クルーズ)



試食・商談会(木津川市)



特産品販売(木津川市)



食のコンテスト受賞作品



本プロジェクト
のロゴマーク

斐伊川・神戸川流域における命の絆づくり事業

概要

斐伊川・神戸川という「水の縁」で結ばれた流域全体の力を活用し、過疎・高齢化が進む上流域集落の維持・活性化につなげていくための様々な取り組みを実施した。流域圏全体が水を介した「運命共同体」であり、一体となって環境保全を行う必要性を再確認し、流域連携の取り組みを「命の絆づくり」と称した。事業実施にあたっては、上流域の雲南市・奥出雲町・飯南町と、尾原ダム・志津見ダム周辺の活性化等に取り組むNPOなどからなる「斐伊川・神戸川における命の絆づくり推進会議」を立ち上げ、この会議を推進母体として事業を展開した。

事業の内容

事業の内容

- 既存取り組みの整理／上流域の各種活動団体やイベント等を把握し、今後の課題を整理した。
- “命の絆づくり”パートナーシップの構築／流域の民間企業等に呼びかけ、ふたつのダム周辺で企業CSR活動を実施した。
- “命の絆づくり”プログラムの実施／島根大学と連携した運命共同体セミナーの実施、既存イベント同士の連携、ダムの資源を活用した新たな上下流交流プログラムの実施、情報発信ツールとしてのホームページの制作等を行った。
- 継続的な取り組みに向けたしくみづくりの検討／活動を継続的に実施していくためのしくみ・基金造成等について検討した。
- 総括イベントの実施／本事業の成果を総括する、「水の縁による新たな出雲の国づくりシンポジウム」を開催した。

総事業費 10.3百万円

ポイント

- 上流域と下流域が水の縁(えにし)で結ばれた「運命共同体」であるという共通認識を醸成する
- 大学、企業、NPO、住民などとのパートナーシップを通して事業を実施する
- 下流域が上流域を支えるしくみとして企業CSR活動を位置付け、機能させていく

事業の成果

- 上流域間相互の連携／尾原ダム周辺地域と志津見ダム周辺地域の連携、地域団体・組織間の連携が生まれた。
- 企業CSR活動の実施／下流域の企業の賛同を得て、尾原ダム・志津見ダム周辺での企業CSR活動を行うことができた。
- 下流域住民への意識啓発／運命共同体セミナー、上下流交流事業、シンポジウム等を通して、下流域住民に対し上下流交流・連携に向けた意識啓発ができた。
- 継続的な取り組みに向けたしくみづくり／継続的な活動に向けた財政的裏付けの確保、基金造成に向けての方向性を示すことができた。

島根県雲南市



企業CSR活動



運命共同体セミナー



シンポジウム



18
命の絆づくり推進会議

震災後の新しい農都交流型ツーリズムの実証調査プロジェクト

概要

都市と農村の強い連携を構築し、それぞれの課題解決に向けた取り組みと持続可能な組織を構築するため、企業の社員研修等の受け入れを進めるための体制づくりとプログラムづくりを行った。構築したプログラムによってモニターツアーなどによる交流実証を進め、交流課題の把握を努め、持続的な経済活動に発展するよう実証調査を行った。

事業の内容

- 【体制づくり】～都内と町内に次の体制を構築する～
 - ・飯豊型ニューツーリズム実行委員会（観光協会・農家民宿・緑のふるさと公社等）
 - ・都市型企业
 - ・団体コンソーシアム（JTBコーポレートセールスを窓口企業と大学が参加）
- 【プログラムづくり】～創られた体制メンバーで次のプログラムを構築する～
 - ・農村体験・農作業体験・暮らしと社会の分野で体験できる内容を整理する。
- 【モニターツアーによる実証】～都市型企业、都市部の学生の参加による検証を行う～
- 【情報発信】～セミナーなどによる情報発信を行う～
 - ・都内と町内でセミナー等を開催する。
 - ・ホームページと動画による情報発信を行う。
- 【総事業費】 10百万円

事業の成果

- 都市と農村の新たな連携に、人材育成の場として農村の暮らしや文化、農作業が有効であることが認められた。
- 都市と農村のそれぞれの課題を相互の交流から解決しようとする理念の理解が深まり、連携できる団体を構築することができた。
- 農村の新たな価値を発見し、地域の中に活気が出始めている。
- 連携する企業との交流から経済的効果が見込まれ、持続する農山村モデルの一つとなれる。

山形県飯豊町



おおやクリエイターズ・レジデンス事業

概要

全市域が過疎指定を受けている養父市は、少子高齢化と加速的な人口減少が持続的な集落活動の継続をも危ぶむ状況を生み出している。

一方で、この閉塞した状況を打開していく施策として、アートを中心に据えた創造的地域再生に取り組んでいる。本事業の活用により芸術と文化、地域住民とクリエイターの融合によって、人が人を呼ぶ連鎖の仕組みを構築することを目指す。

兵庫県養父市



【活用する遊休施設】



【創作活動の様子】

事業の内容

事業の内容

遊休化している市有施設を活用することで、低コストで居住スペースの設置を行い、一定期間居住する空間を提供する。このことにより、今後の定住施策立案と低下する集落の活力を呼び戻す課題対応への足掛かりとする。

総事業費 10.1百万円

ポイント 地元市民団体との協働

○農村部への移住の課題は、地域に溶け込めることができるかという点がある。これらの課題を解決するために、地域市民団体の協働で、移住者との接点を密にする。

事業の成果

クリエイティブ関連の事業は、地理的な要因にとらわれることなく事業展開が可能である。既に他地域において事例は多くある。転入者が地域に地域住民が気付かない宝の発見、四季を感じることができる環境が好きといったような $+α$ を見つけ、将来の集落像を描くことが可能となっている。これらの取組を、交流をする地域住民がその情報を共有し、さらに市内の各集落に波及させ市域全体の活性化につなげたい。

瀬戸内海・島まるごと体験交流推進事業

概要

過疎・高齢化が進行する中で、地域の活性化を求めるには交流人口を増やし、若者の移住・定住促進につなげることが喫緊の課題であった。

この中で、本町が滞在型体験交流のまちづくりの取り組みを開始し、体験型修学旅行の誘致等も決定したため、具体的な地域資源を掘り起こすと共に、若者のニーズを把握し、交流人口の拡大、定住促進を目指すために事業を実施するものである。

事業の内容

事業の内容

- ・アマモ等の地域資源を活用した、体験プログラムを検討することを目的とした講演会開催
- ・郷土史研究家、高齢者に対し、地域文化等の聞きとりを実施
- ・コミュニティデザイン業務(若者を中心とした島の魅力探し)を実施

総事業費 10.4百万円

ポイント

- 地域資源、瀬戸内海に精通する講師を招聘し、現状分析、活用方法を検討する。
- 文化の伝承のため、専門家を招聘し、聞き書きの基礎を習得する。
- 島内外若者の交流のもとで、島民の取材を中心とした島の魅力探しを実施。

事業の成果

・アマモ等の地域資源の認識を高めるとともに、磯場の活用、海を利用したシーカヤックの活用など、体験プログラムを充実させる手法を学ぶことができた。

・聞き書き講習を受講し、実際に地域のお年寄りや、郷土史研究家より話を聞き、まとめることで、地域文化伝承の基礎資料を作成することができた。

・島内外の若者が中心となって「大崎上島のカッコいい過ごし方図鑑」を製作、定住等に活用できる情報ツールが整備できたと共に、島内外若者の活発な交流が図れた。

広島県大崎上島町

- ・瀬戸内海の中央部に位置する町
- ・基幹産業は柑橘栽培と造船

若者を中心とした島の魅力探し



聞き取り手法の説明



聞き取り風景



図鑑お披露目会

※この他、島内の若者に対するニーズを調査するため、島内若者を中心としたアンケートを実施。

中山間地域広域的価値創造発信事業

概要

外部人材(都会の若者等)を活用した地域資源の情報発信及び高付加価値化を図ることで、地域資源を活かした事業化(6次産業化等)による新たな雇用の受け皿づくりと、若者等が定住しやすい環境づくりを行うことで、魅力ある農山村の景観や暮らしを守り、伝えていく。

山口県山口市



事業の内容

事業の内容

- ・事業化の可能性が高い地域資源の調査と、地域資源を活用した起業等により定住を志す外部人材「山口市地域おこし協力隊」の募集
- ・地域おこし協力隊の活動拠点となる法人、団体等の体制整備

総事業費

9.9百万円

ポイント

- 外部専門家の視点による事業化の可能性の高い地域資源の選定
- 法人、団体等地域のニーズに応じた外部人材の募集及びマッチング
- 専門家、地域と連携した外部人材の起業・定住に向けたプログラムづくり

事業の成果

- ・事業化という観点、外部・若者の視点での地域資源の洗い出し
- ・山口市地域おこし協力隊2名(阿東1名、徳地1名)の採用内定
- ・協力隊受入れ地域の体制整備、機運醸成
- ・徳地特産品(健康茶、やまのいも)を中心とした高付加価値化の進展(事業化の下地づくり)

しま共通地域通貨を活用した産業振興及び交流人口拡大事業

概要

- 過疎地域の人口減少に歯止めをかけるためには、働く場の確保や所得向上が重要
- 過疎地域内の経済活性化のため、過疎地域のPRと誘客、過疎地域での消費を促進する取組として、離島過疎市町村で共通に使用できるプレミアム付き商品券を島外からの観光客等へ限定し発売

事業の内容

《事業概要》

- 関係市町で「しま共通地域通貨発行委員会」(会長: 壱岐市長)を立ち上げ、その発売に向けた準備のため、負担金を支出
- 主な準備作業は以下のとおり
 - ・関係市町、関係機関との連絡会議
 - ・商品券のデザイン・印刷、各種PR素材作成
 - ・HP製作、各種媒体による広報
 - ・加盟店、販売店等向けマニュアルの作成 等

《総事業費》

10. 1百万円

プレミアム付き商品券「しまとく通貨」は、あくまでツールであり、しまとく通貨を意識した商品開発やおもてなし体制の整備など、それぞれの過疎市町が工夫を凝らした取り組みを個別に検討・実施

事業の成果

- しまとく通貨の販売準備作業を実施し、関係者の事業体制を整備
- しまとく通貨の広報に努め、県内外への認知度が向上

長崎県壱岐市

《関係過疎市町》
対馬市、壱岐市、
五島市、小値賀町、
新上五島町、
佐世保市宇久町

《関係機関》
市町商工会
市町観光協会
長崎県
長崎県観光連盟
広告代理店 等

《加盟店数》
793店 (H25.4.1現在)

《販売場所》
39ヶ所 (H25.4.1現在)



五家荘地域複合型輸送システム構築事業

概要

[八代市五家荘] 人口363人 151世帯

熊本県八代市

熊本県八代市内中心部・新幹線駅等から約60kmの遠隔地にある九州最後の秘境「五家荘」には公共交通がないため、観光客や対象地区住民の移動が困難な状況があり、また地場産品や生活物資の輸送にコストがかかることなど大きな課題を抱えている。

本事業は、観光客・住民・地場産品生産者のニーズを満たす複合型輸送システムの構築の可能性について、実証運行実験を含む調査等を実施するものである。

観光バスを使った住民の移動の様子(イベント時)



事業の内容

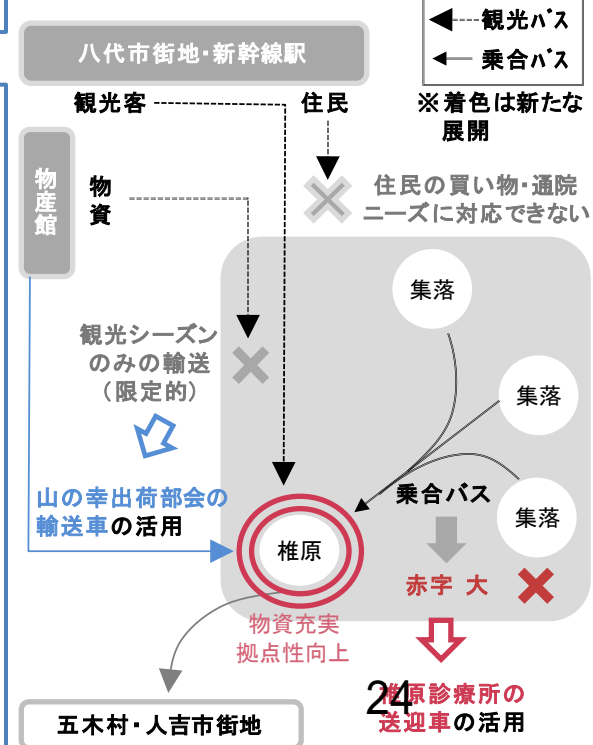
総事業費 8.9百万円

- ◆ 地域における活用可能な資源等の現況調査
- ◆ 住民アンケート調査・地域座談会によるニーズ調査
- ◆ 実証実験の運行計画および広報の立案
- ◆ 観光周遊バス・乗合バス・物資輸送の実証実験 等

◆ 事業のポイント

- ①「観光バスによる収益事業」により、「住民等への移動支援事業」を自立的・持続可能なシステムとして構築
- ②五家荘地域振興会の協力

▼ 実証運行結果



事業の成果

◆ 今回の事業を契機に、下記のような取組を地域において新たに検討・展開

観光

【成果】観光周遊バスツアーとのコラボレーションによる五家荘『宿の会』の活性化
(五家荘『宿の会』加盟の民宿への送迎を企画)

【新たな展開】

- ・地域団体(五家荘地域振興会)主導による観光企画・運営実現へ向けた取組開始

住民

【成果】地域における移動困難者への移動支援の今後の必要性を住民が認識
(地域懇談会を通じた意見交換)

【新たな展開】

- ・『椎原診療所』の患者送迎車を活用した住民移動支援策の取組開始
(地域における活用可能な資源等の現況調査により、新たな試みへ展開)
- ・自家用有償運送を実現するためのNPO設立へ向けた取組開始

物資

【成果+新たな展開】

- ・『山の幸出荷部会』における現在の輸送工程の中に、生活物資の輸送に活用できる空き工程を見出し、出荷部会の輸送と合わせて生活物資を輸送する仕組みづくりを支援

広域Wi-Fi無線を利用した観光客情報発信事業

概要

事業の趣旨: 都市と離島の交流を図りつつ、町内での雇用確保による若者の定住化促進を図り、人口の島外流出を防ぐため、久米島の主要産業である観光産業の活性化による雇用確保に取り組む。観光産業の現状としては入込観光客数が停滞しているため、これを増加させるべく、観光客のリピート率を増やすため、広域Wi-Fiを利用した観光客向けの観光情報配信の基盤整備を行う。

沖縄県久米島町

イーブビーチへのWi-Fiアンテナ設置風景



久米島マラソン用スマートフォン向けポータルサイトイメージ



主旨

本大会は、日頃健康ランニングで体力づくりに励んでいる全国のランナー（ビギナーからベテランまで）を迎え、「FUN RUN」（楽しく走る）を掲げ、健康の増進、青少年の健全育成及び壮年の体力向上を図るとともに、スポーツイベントによる地域の活性化、島民並びに参加者の親睦と融和を図ることを目的とする。

事業の内容

事業の内容

観光客向けにWi-Fiスポットを町内の主要観光スポットに設置するとともにスマートフォンに最適化した観光ポータルサイトを構築する。併せてWi-Fiスポット、観光ポータルサイトの告知を行う。

総事業費

10百万円

ポイント

○久米島を訪問した観光客にスマートフォンで観光案内のおもてなしをして、久米島町の魅力を体験してもらい、リピーターを増やす。



事業の成果

久米島マラソンに合わせて、Wi-Fiアンテナの整備と久米島マラソンの案内用のポータルサイトを構築した結果、告知をしてないにも関わらず開催前後で150ユーザーのアクセスがあった。平成25年3月のロードレースイベントが開催され、このイベントに合わせて近隣のホテル等において告知を行った結果、大会前日・当日の2日間で合計404ユーザーのアクセスがあった。Wi-Fiアクセス時には、専用のポータルサイトに誘導し、ロードレースのイベント情報やその他観光情報等の告知を行うことができた。結果として、ロードレース参加のために久米島に訪れた観光客の利便性を向上させることができ、次回のロードレースへの誘客に貢献したと考えられる。

越中伝統工芸の最高峰「井波彫刻」と「五箇山和紙」の匠の技の伝承と新伝統工芸品創出事業

概要

南砺市の伝統的工芸品として指定を受けている「井波彫刻」と「五箇山和紙」は高度な伝統技術に裏付けされた作品ではあるが、近年、伝統的な工芸品へのニーズが失われ、消費者・顧客離れが進んでいる。

このことから、若手職人の技術向上・育成を目的に伝承講習会を開催し、また、時代のニーズにあったこれまでにない新しいデザインを求め、デザインコンクールの開催や、他分野のデザイナーとの交流によりコラボ作品の試作に取り組んだ。それらの作品の展示会をホテル椿山荘東京で開催し、首都圏の富裕層にアピール出来た。

事業の内容

- ・伝統工芸現状調査(課題整理)
- ・伝承講習会の開催(彫刻・和紙 各2回)
- ・デザインコンクールの開催
- ・他分野のデザイナーとの交流
- ・「ホテル椿山荘東京」での展示会
- ・販売戦略の検討

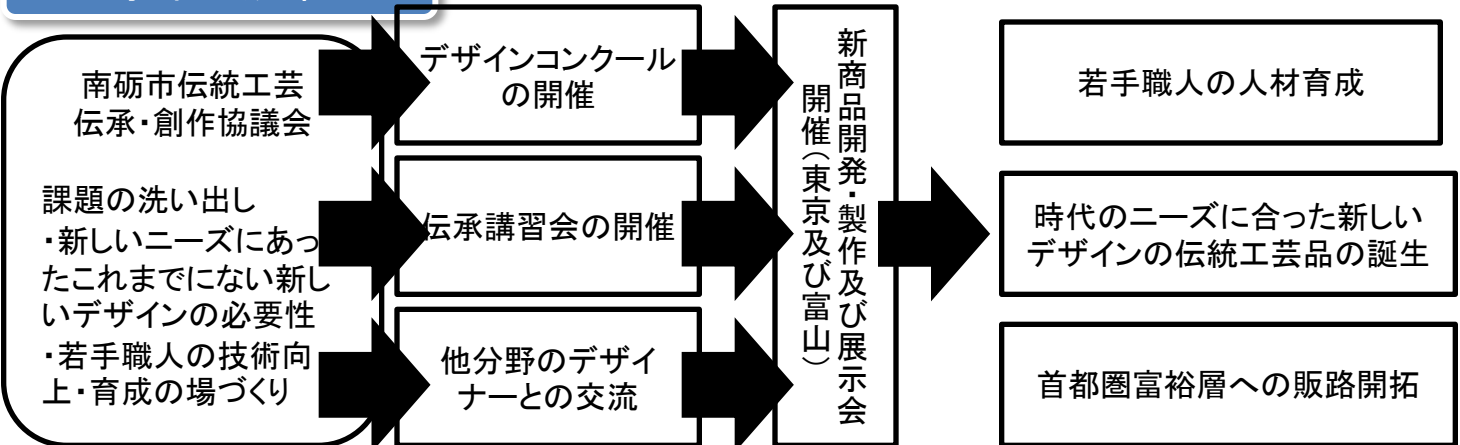
総事業費

12.4百万円

ポイント

- ◆若手職人の育成
→伝統工芸士や日展作家による伝承
- ◆新商品開発、販路開拓
→伊勢谷友介さんが代表を務めるデザイナー
専門家集団「リバースプロジェクト」との連携

事業の成果



富山県南砺市

デザインコンクール入賞作品「日傘」



「井波彫刻」伝承講習会(10/19)



リバースプロジェクトとの交流(10/11)



ホテル椿山荘東京での展示会(2/24~2/26)



北山村の伝統的山村文化の継承事業 ～全国唯一の飛び地の500人の村から伝統文化の発信～

概要

和歌山県北山村は全国唯一の飛び地の村、人口500人の過疎山村である。昔は村から切り出した木材搬出等、林業で生活基盤を築き、独自の伝統文化を育んできたが、担い手不足の他、平成23年に紀伊半島を直撃した台風の影響もあり、村の伝統が記録された写真等の資料等も破損・紛失が進んでおり、自然の恵みを活かした生活風土、行事が衰退しつつある。

事業の内容

事業の内容

北山村と、全国の同じ課題を有する過疎地域の伝統文化の継続した活性化を目指し、担い手の高齢化により技術や文化の継承が困難になっている①やな場(伝統的鮎漁の技術)の再生復活、②伝統行事復活(昔の結婚式の祝い膳)に取り組むとともに、③ITを活用した過疎地域の情報共有・発信を行う過疎地域連携に取り組んだ。

総事業費

10.4百万円

ポイント

- 技術を有する村民(高齢者)が、村の若手や都市部の若者へと指導し、やな場・祝い膳の復活を進め、伝統文化の次世代の担い手を育成。
- 他の過疎地域と連携することで、1地域で行うよりも効果的な情報発信・ノウハウの共有を推進。

事業の成果

- ①筏師をはじめとした村の若者へと「やな場」製作の実践を通じた技術継承が行われた。伝統文化「やな漁」を観光振興に活かしたイベントの継続開催に向けた機運が生まれている。
- ②昔の結婚式で出された伝統料理「祝い膳」の記録が整理され、新たな「祝い膳」も製作された。村内の宿泊施設等での「祝い膳」の活用等を現在検討中。
- ③過疎地域の市町村がそれぞれの伝統文化の発信・活用を連携して行うための方策を共有する機会を北山村で持ち、ブログポータルサイト・SNSを活用した連携行動・役割分担が決まった。

和歌山県北山村

再生・復活された「やな場」



再生・復活された「祝い膳」と復活イベント(昔の結婚式の再現)



北山村ブログポータルサイト



環境型ニセコ旅育(たびいく)の創出による地域おこし事業

概要

ニセコ町は、自然環境を活かした観光地として、国内外から年間150万人が訪れていたが東日本大震災以降入り込み数が減少している。町内就業人口の7割が第三次産業に従事し地域経済に与える影響は大きい。

現在、地域資源の持つ魅力が観光に十分に活用できていないとはいえず、これまでの団体観光から少人数グループへと観光客の形態の変化への対応、また、他地域とは異なる特色を持った観光メニューづくりの対策が必要となっている。地域の魅力を最大限発揮し、さらに町が力を入れている環境施策を取り入れながら、地域の観光プログラムの創出など観光地の魅力向上の方策を調査し、地域の活性化を図る。

北海道ニセコ町



事業の内容

事業の内容

- ・「環境型ニセコたびいくプログラム」の実証実験による顧客ニーズと実現課題の把握
- ・たびいくプログラムのプレイヤー、サポーターのニーズ及び地域での展開可能性調査
- ・地域におけるたびいくプログラム導入及び持続可能な事業の実現可能性の検討

総事業費

1. 1百万円

ポイント

- 実証実験を通じて参加者が望むプログラム内容や値段設定、問題点などを確認。
- 地域でのたびいくプログラムの理解と参加・サポート体制可能性の把握。
- 事業の立ち上げ推進する際の課題と対策が見え、早期の事業展開が展望できた。

事業の成果

①環境型たびいくプログラムによる利用ニーズの掘り起こし

実証実験を通じ、環境に関心がある人々のニーズを把握することができ、今後の展開の見通しが見えてきた。既存の観光客のみだけでなく、地域の付加価値化へ向けた取り組みの可能性と過疎地域としての活性化の道筋の展開を見出せた。

②ニセコ町における環境型たびいくプログラム事業化に向けた方向性

実証実験を通じ、既存の自然を活用する体験観光以外に、地域資源や人材、環境に配慮したプログラムを活用するたびいくプログラムの可能性を見出せた。また、事業推進の核となる事務局機能の検討により、スムーズな事業化に向けた体制を整えることができた。

③環境型たびいくプログラム事業に向けた意識の醸成

町内に潜在する地域資源や人材を活かしたいニーズが明らかになり、有機的に連携させ多様なプログラム提供による満足度の向上、地域内での経済循環や人の往来の増による活性化を図っていく意識醸成に結びついた。

循環型環境システム構築実証事業

概要

豊富な有機物資源(産業廃棄物等)を鉄触媒を用いた人工腐植化技術により循環資源として高度な利活用を図り、「循環型環境システム」の構築と農業や水産業のさらなる発達及び事業化による新たな地域活性化対策(コミュニティビジネスの展開と雇用機会の増大)を推進するものである。
(※北海道大学工学研究院・標津町・民間研究所との共同研究)

事業の内容

事業の内容

- ヒトデ、ホタテ残滓、下水道汚泥等、重金属を含む原料の人工腐植化処理による重金属含有量・溶出量の削減試験(腐植物質としての有効資源利用)
- スラリー(牛ふん尿混合物)のガス発生抑制試験(悪臭防止対策)と硝酸態窒素削減試験(水環境への負荷軽減対策・土性の改善と自給粗飼料の生産性向上)
- 大量に発生する酪農廃棄物(廃棄生乳)の人工腐植化処理による堆肥としての高度資源化(都市緑化対策、地域内活用) ○腐植処理した水産系廃棄物による海の藻場造成試験

総事業費

11.6百万円

ポイント

- 鉄触媒による人工腐植化技術により、基幹産業と自然環境の変革
- 新たなコミュニティビジネスの展開

事業の成果

- ヒトデ、ホタテ残滓等の重金属含量の減量による安全な利活用促進、肥料成分の凝集及び処理費の削減
- スラリーの硝酸態窒素が大幅に低減、また悪臭ガスの発生も著しく抑えられ環境と調和した酪農が確立
- 牛ふん堆肥の短期熟成が可能となり、化学肥料の削減と安定した肥力を持つ土づくりが可能
- 高栄養、高ミネラルを含む廃棄乳の堆肥化確立

北海道標津町

【人工腐植の処理例】



原料(廃棄牛乳)



人工腐植実験機
(原料と資材を投入)



処理後

島産エネルギーを活用した雇用創出事業

概要

鳩間島における油化プラントを使用した活動を、竹富町全体の環境リサイクル事業に発展させ、環境保全の推進、行政コストの軽減、新たな産業及び雇用創出等、海洋島嶼自治体である本町の特性を活かし、かつ課題を軽減する適切な社会システムの構築を図ることを目的とする。

事業の内容

事業の内容

発泡スチロールをエネルギー(スチレン油)に変換する固定式及び移動式油化装置を含めた、民間ベースの回収と油化及び利用(リサイクル)システムを確立し、環境、財政、及び雇用面で極めて有効な方策となる、海岸漂着ごみ対策等における社会システムの構築を図る。

総事業費

1. 1百万円

宝の島プロジェクト

「油化装置」の試験導入

管理主体としてNPOが適任

ポイント

住民主導の管理・運営体制を検討

1. 町内各島のNPO等民間団体協議会の設立と社会システム内容の検討
2. 精製スチレン油の有効利用検討調査
3. スチレン油を活用した社会システムづくりの検討
4. 地域雇用効果の検討・試算、5. 産業廃棄物に関する許可取得

事業の成果

- ・ごみ焼却施設の補填燃料
- ・公共施設、事業所、家庭向けボイラー、発電機の燃料
- ・観光施設のシャワー、「足湯」などの燃料
- ・特産品生産の燃料(燻製機など)

- ・環境問題の解決
- ・行政コストの大幅な低減
- ・新たな産業(雇用)を創出

沖縄県竹富町

